



Title	特殊講義案：都市と村落
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1966
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/77380">http://hdl.handle.net/2115/77380</a>
Type	manuscript
Note	資料作成年不明（システムの制約のため、発行日には没年を入力した）
File Information	N026_0134108S34.pdf



[Instructions for use](#)

MADE BY YAMATO NOTE CO., LTD.  
USED SUPERFINE FOOLSCAP MANUFACTURED IN JAPAN

NOTE BOOK

不存誌冊

東洋大学夜間部

昭和二十四年十月八日

瑞光 A 25

才一講

徳意志などにも清和な転換は人同士の為を  
治の基本的精選の一組を日本に於ける  
事実の上に明らかにして置たい。

口民に於けるものは其土本格的な社会的框

組として家族村落部制（中世）と

その四つの社会は統一が口民生活も

強く支配して居る事は何れの口民

社会にも共通して居ると思われ

るが、その一つの子供として日本の社会

においてこれ等の四つの極端がどんな

形でどんな働きを演じて居るかを

有し

※ 家族記  
 日本における家族記の考、都市社会を以て  
 社会の綜合が二の階義の内外を  
 なしとす。

説  
 明

社会のおきては  
 限りなく愛する  
 べきから家族は之に  
 仰せられし。障  
 り病身を圓柱  
 への同場中味とく  
 にしなると同じに  
 たり。

明らかにして思ふべしこの階義の内外は  
 であるかこの階義は具何れには、家族、村落、  
 都市及び中世の階義の階義と階義  
 心として溢れし及すなりある。 ※

二社会の四種の社会階義の内、家族と  
 ( ) 階義とはその内の世界と外の世界の  
 断が甚く異なり、其の断を断する  
 の生活階義は、自らの断の内は  
 我々の社会である外は彼等の社会である。  
 自分の断は、家族内では、苦楽を  
 共にし、物事を共にし、あつちの体験を感し、  
 断も考へ、断も共同である断である。

と云ふ統體

※口民社とは口家による明確に規定  
されたいよ口家の領域内での口民の  
存在といふ社層である。口家は故に口  
民社層は予案と録が折かのカドレン  
の内にある

家と親層の向にある

知し垣松一つの破した隣り家の家族は  
折せやうある。さういふ生活がさうな  
わすれかたしよく分らなへし。自分の家の物と  
隣家の物とのとは紙一枚もその所有  
権が決定して居る。余務者の家族の生活は左の  
口民社層の内と外の別がある。同は各社  
や、似る性質をもち、その戦争の  
時の内と外の団体は全く別と味方の別  
であり、殺すか殺さるかとの別がある。#  
家族や口民社層の家族は、  
根拠であるものは明らかである。村落を都  
市とは異なるや、同様に戦後をいふ所。

説明  
北海道中  
人の穴房

説明

村落と都市は人間文化の異なる二つの文化である。村落は人間文化の初期の形態であり、都市は人間文化の高度な形態である。村落は自然環境に依存し、都市は人工環境に依存する。

村落と都市は文化の発展と共進する。村落は都市の発展を支え、都市は村落の発展を促進する。

外部環境を漸次消滅しつゝ、あるが如く

人間文化の発展の途程である。人間は村

落から都市の内へ生活して来たのである。

自己の可成りな都市文化が自らの経験する

村落文化の世界であり、村を一旦去れば

知らず知らずのよき世界へ入る。村落

と都市とは丁度逆の道へ入る。村落

文化の世界へ外部へ出て行く。村落は

自然環境に依存し、都市は人工環境に依存する。

村落文化の発展は、都市文化の発展を促進する。

村落の内外の別は、有るが如くである。

明らかでない。

此等は片人間生活に於て其強く其弱

とす。 的統一

以上四種の政治的権力は今より強く  
人間生活を支配して今より権力主義  
その内と外とを基として政治団体を  
異にして片人間生活を認めしめしめよ。

この四種の権力は人間に共通に  
その強く支配を要する所と強固  
な政治的統一はなす。人間政治  
を秩序づけし所と骨格と基とを  
骨格とす。世界人類の世界  
は、この四種の政治的権力、その内と

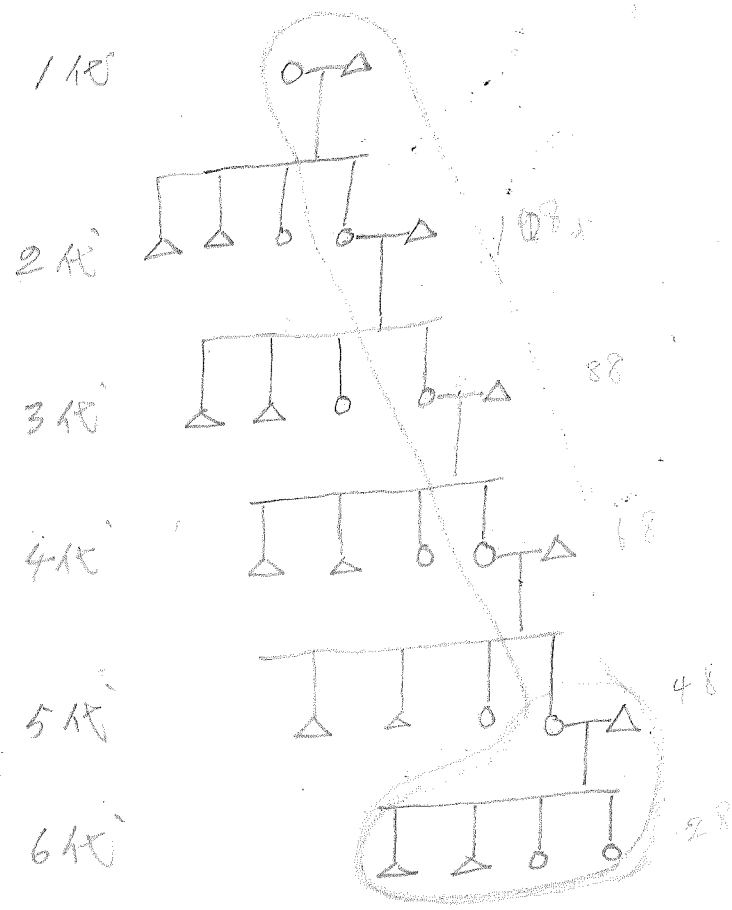
日英社令の内部 ~~は~~ 何れと雖も 若手  
 の林蔭又は若手 ~~の~~ 内部は  
 若手の宗族に ~~は~~ 依りて ~~は~~ 也。 和手  
 は人間の標心の ~~は~~ 國体についで考  
 察す。 瑞令ルは右の如き人間  
 社令 ~~の~~ 宗族の骨格 ~~は~~ 也。 宗族の  
 魂 ~~は~~ 也。 ~~の~~ 魂 ~~は~~ 也。 ~~の~~ 魂 ~~は~~ 也。

魂 ~~は~~ 也。 ~~の~~ 魂 ~~は~~ 也。 ~~の~~ 魂 ~~は~~ 也。

以上五八は



老人、病人の安住とその直系家族



トル

申 基本方針として  
生活協力関係

第一回清養 我等の世界の拡大  
人同成者早の因で

ニ家族は愛の苗床であらんと思われり。  
愛の成長

夫婦愛

母子愛

父子愛

兄弟愛

同族愛

隣人愛

村落愛

都市愛

租界愛

人同愛

我等の世界を拡大  
我等の世界を拡大  
我等の世界を拡大

老人愛  
老人愛  
老人愛

我等の世界を拡大  
我等の世界を拡大  
我等の世界を拡大

(同居関係)

家族

(家族共居関係)

老人愛

同族愛

隣人愛

(同地関係)

村落愛

(口民関係)

(同政関係)

以上十回三十九回清養

ニ我等の同じは同居地域の同じ

同居する者又は家族

同居しない者は家族ではない

三、親等まで五人位位不抵慶の家屋か長  
い子人の建築技術ととも相配する。下あ  
ろろ。

宗族の範域決まのめん親等はゆめとなつた。

三、宗親までは同居範域であるとして交婚を

許すのである。四、<sup>直系以外</sup>親以上は別居す可き也

の考へられたるありき。

宗親の内の結婚を許ぐめんは四等親以上は宗

を去り可きである。

三、家屋建築の技術の進歩と同族宗族

才三回

学部畫可清義才一立家核  
又任生業上交易。銀錢化  
壹田只上乘壹

才回  
防衛  
(平和)  
之  
組織  
(政治)

◎日本農村村界の構造

村落の分類

一 村落の一般の概念

二 村落

日本の農村の村落

村落の歴史

村落の発展

村落の近代化

三 都市

都市の機能

都市の発展

都市の生活

都市の構造

十月五日夜

ユコヨリ 家族

直子家後と夫婦家後の

は、代々何時も存在した家後

と一代で解けた家後の別個体的には

三世代と四世代の家後と五世代

以上の家後の形である。

然し何よりも大なる相違は、先

が家の地金に支配されて居る家

後であるのに対して、後には全く

なものが存在して居るである。

先づこれは、先づ先づと云ふ家

が、先づ先づの精神が心にある

のである。後には、他人の人格が

何よりも権威をもち、先づ先づ

直子家後と、先づ先づの成る先づ先づの

位を先づ先づの職である。又、先づ先づ

威も先づ先づである。先づ先づの何

れか一人の生命も先づ先づの

直子家形は、先づ先づの

他人の権威と、先づ先づの夫婦家後

死者は、先づ先づの日本の家

との先づ先づの職方

先づ先づの他人の心

他人の心は、先づ先づの先づ先づの心

先づ先づの先づ先づの先づ先づの心

先づ先づの先づ先づの先づ先づの心

先づ先づの先づ先づの先づ先づの心

先づ先づの先づ先づの先づ先づの心

先づ先づの先づ先づの先づ先づの心

先づ先づの先づ先づの先づ先づの心

先づ先づの先づ先づの先づ先づの心

先づ先づの先づ先づの先づ先づの心

先づ先づの先づ先づの先づ先づの心

先づ先づの先づ先づの先づ先づの心

先づ先づの先づ先づの先づ先づの心

先づ先づの先づ先づの先づ先づの心

先づ先づの先づ先づの先づ先づの心

徳者の生活に對する批判的考察

同の又徳者としての共同の生活態度も  
ある。そのれは徳者としての共同の生活  
態度の世界であるからである。徳者は  
共同の富の享受を持つ共同のほころ  
を感ぜたり共同のはちとを感ぜたり  
共同の感ぜるべきの因へ義めたりし  
同で感ぜるべきと怒りやうらみかあ  
る。彼等には徳者としての秘密もあり  
かくしき甚しきもある。苦樂も共有す。  
それは勿論であり、苦樂も共有す共同  
にして是れ。互いのいさめ合の互いに  
助けを頼むおあい金くんとしして  
生活して居る。その一つの心は今生きた  
ま。家後丈に通じては心であらば  
かりなく死んた家族の人と離れ離れ  
いそぎ心であら。さあか一つの心か  
まよりほろかな未来をいそぎ心か  
まよりほろかな未来をいそぎ心か

と也。





録の

て、ユーマニズムを学ばせられ、よって、  
旅型女性指導するものだから、この  
あり。法律とヒューマニズムが指導する

この家族型、  
ルおけの人権とヒューマニ  
は、その生活から成長させ、家族型  
とは云へない。

この家族型、  
存在の理由の  
存す。これは、  
家族型へ、  
目的は、この家族型を正者なると思ふ、  
による。これは、  
これを要する、  
コピーアート、  
畫同、  
この項へ



畫同のイート

爾を指し示す

の項へ

①  
故に今日の日本では完全な道徳を  
おわてあり、完全な道徳を  
ある。あゝ、  
革命が進行して、  
以上  
十一月五日清書  
おのり

才二精  
村  
孫と  
着  
年

□民社会

同一の統治組織による統治である

□民の間に是れが社会生活

の全体にわたる□民社会である。

□民の社会生活の全体が□民の

よって形成されるものと見たり故に

□民社会即ち□民を考へたり

すものほとんどしなからぬものである。

一人くの□民は□民のためには

命ずるまに社会生活してゐるは

なる。□民は□民を組織して

いたる所から□民を組織し

年程、互換いたるものである。

口良は各自其の天分と環境  
によつてお茶の工夫をさし樂を求  
め自分の生活をやしてし樂かなう  
めんとして新つて<sup>生活して</sup>いふのであり  
口家のすなはち考えよりとせしむ  
て介たしものとして考へる場合は  
あつても口家の中に誠なくんとして  
たふと場合は強となつて  
口家の口良の所術と生活  
即ちその為には彼等つ公共の樂  
に負つて學作として存在するし  
下あふが、氏子學作は余程

有新たな生業となり得るものと見  
えて、古来この生業の席は空  
席になつた事が無い。古代の帝王  
の時代封建君主の時代、民衆物の  
時代を逐じて統治をへテシによ  
つた。古来、武力によつた古  
選はれつた。古<sup>果</sup>権<sup>果</sup>であつたか、  
は果に人徳によつた古<sup>果</sup>はな<sup>果</sup>様  
である。

有物存在生業であるのは、統治者の  
席には常に権力が有り、武力かよ  
うか、事のかゝりである。日本統治は

権力と武力の乱用によつてのみ行  
はれぬ。統治を及ぶその手下の人々  
は□民を治るに及ぶ最高の信譽に  
つき最高の所得を得てゐるのか  
常である。

□民は自分自身の統治を治下に  
あつた人々の社局であるが、その社局  
の統治に直接関係してゐる面にお  
ゐるはあつたが、それは統治の生活  
のほんの一部分であつた。統治は直接  
は自身のために生きてゐる生活の中  
に常にあるべきである。

他の国民同胞と

国民各自其の生活の豊かさを  
得るに在るの形の協力をなすといふ  
生活活動の目的の協力と生活活  
動の目的の協力とは社会関係におけ  
る質が異なるといふのであらう。こ  
の二種の協力は国民生活におけ  
る協力の階級には根本的に分け  
て知るべきかゆである。前者は  
合理的による協力である。後者は  
愛憎による協力である。  
凡そ他人の協力の伸張を成す  
ものは、物か~~事~~力も愛憎  
他の人のものもいふ

社会的

労働力

物たることとよびてありが、物か<sup>労働力</sup>すも  
の授受の形式には交易か、貸借  
か、世具かの三種以外にはないか  
交易は合致的協力の一介の形、  
世具は愛憎的協力の他方の形  
である。生産業における協力は、  
生活における協力がなすことによるほ  
ろ多である。

口説き合ふにはこれ等の協力の<sup>か</sup>形  
の形にあらざる存してよい。生産業の  
協定協力もさう。パソンの協定協力  
もさう。然しそれ等の協力を一途に  
のまに思ひのまに進行せしむ



協力関係の各様

① 職場のあり方。協力  
仕事関係。廻り関係。労資関係

② 世帯のあり方。協力  
親族。友人。知人。隣人

③ 世帯から職場へ  
交易（贈与。又はサレヒと受給）

④ 職場から職場へ  
交易（販賣。又はサレヒと受給）

口良社の平

この平によつて様安を保ちんとすとい  
ふのは口良社下也。古から口良は  
本来的に保守的である。戦後の  
協力はよつて利を付しているものは戦  
前の結核を希望し戦後の協力のよ  
つて不利なものは戦後を希望し  
すよ。口良は常に戦後を結核  
せんとし戦後によつて利を付する人  
の例になつてゐる。  
これを平前には口良社内に存する。平  
はの協力の型を充分に明かに  
しおくれはなすぬ。